

呼吸抵抗検査(モストグラフ)とは



喘息や COPD（慢性閉塞性肺疾患）のように、気道が狭くなる疾患では、呼吸する際に空気が気道を通りにくくなります。この「通りにくさ」を示す指標を呼吸抵抗といいます。

モストグラフは、数秒間安静呼吸をしたときの、呼吸抵抗の変化を 3D グラフで表示したものです。

検査を受ける方に、普通に呼吸していただくだけで評価ができます。

測定方法

スピーカーボックスからいろいろな周波数の音響信号を送り込みながら、呼吸器内の気圧と流量を測定します。

マウスピースをくわえ、頬は振動しないように押さえます。また、鼻から息が漏れないようにクリップを装着します。この状態で、何回か普通に呼吸をするだけで検査できます。

呼吸抵抗検査(モストグラフ)でわかること

呼吸抵抗を 3D グラフで表示することで、呼気・吸気による変化（呼吸周期依存性）や周波数による変化（周波数依存性）を可視化することができます。気管支喘息や COPD 等、それぞれに典型的なパターンがあります。

呼吸抵抗検査のあれこれ Q&A よくある質問にお答えします

Q：スパイログラフィーとは何が違うのですか？

A：スパイログラフィーでは、肺活量・一秒量を測定することで、気道全体での評価を行います。一方、呼吸抵抗検査は、肺が呼吸するための、気道の状態を部位ごと（太い気管支なのか細い気管支なのか）に分けて、評価することができます。

Q：この検査とスパイログラフィー、両方を受ける必要はあるのですか？

A：スパイログラフィー測定結果では変化がみられなくても、呼吸抵抗検査に変化がみられる患者様もおられます。両方の検査を受けていただくことで、より多角的に診断を行うことができます。

Q：検査時に注意することはありますか？

A：注意点は特にありませんが、肩など、体に力が入っていると、正確に検査ができなくなります。マウスピースをくわえて普通に呼吸をしていただくだけでですので、リラックスして検査を受けてください。また、検査前の喫煙は避けてください。

